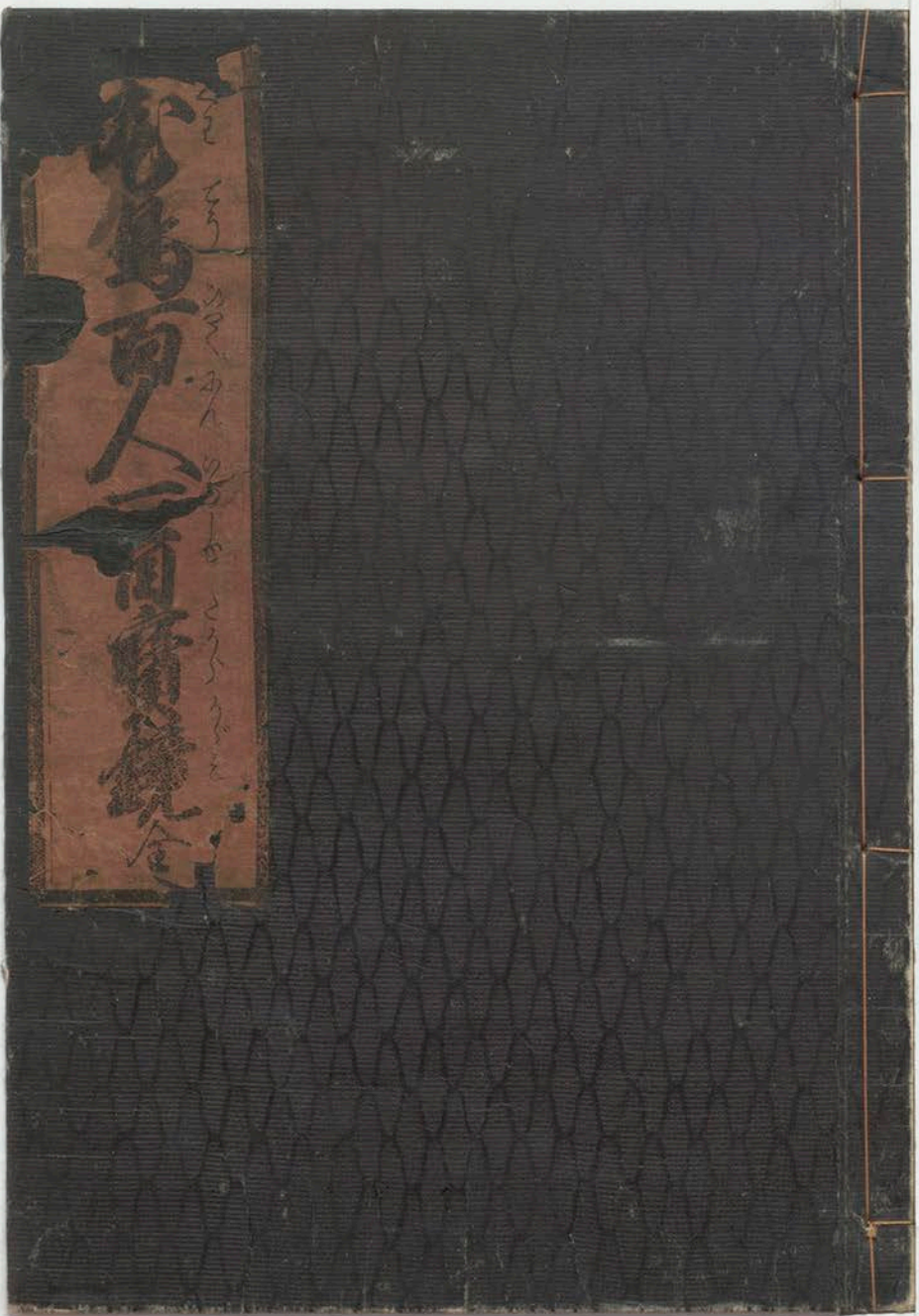




佳吉大月相

榜本大明神

玉津嶋大明神

[illegible]

ちふありて月おる

代名詩卷之

郢都

をうへく

知尊

入

あいの

公 子

乃

いふはて
多世

そきつね

1. 4. 6. 8. 10.

そり
西くすい

子
人

の成り

五



海墓之圖

郷
礼の次

嫁入
姻入
人
か
き
の
う

ふくふふあそ親子おやこ

是舟へところとこ乃て

4. ひろぶさえぬで

とく
あまの
あまの
あまの

足らずをいふ

此ひらききり

有り
嫌人
あはれん

おんへ畜とく
ふとえ

聖人の大いさく先

實小食汁
出莊
面人一首と

卷之五

晴雨知時

と云 難て

やうきせりり
うきみ

非
に

五

そあ

天智天皇

秋
の
回
乃

むくふた唐の

笠城あゝとてふ

衣子の病にぬまは

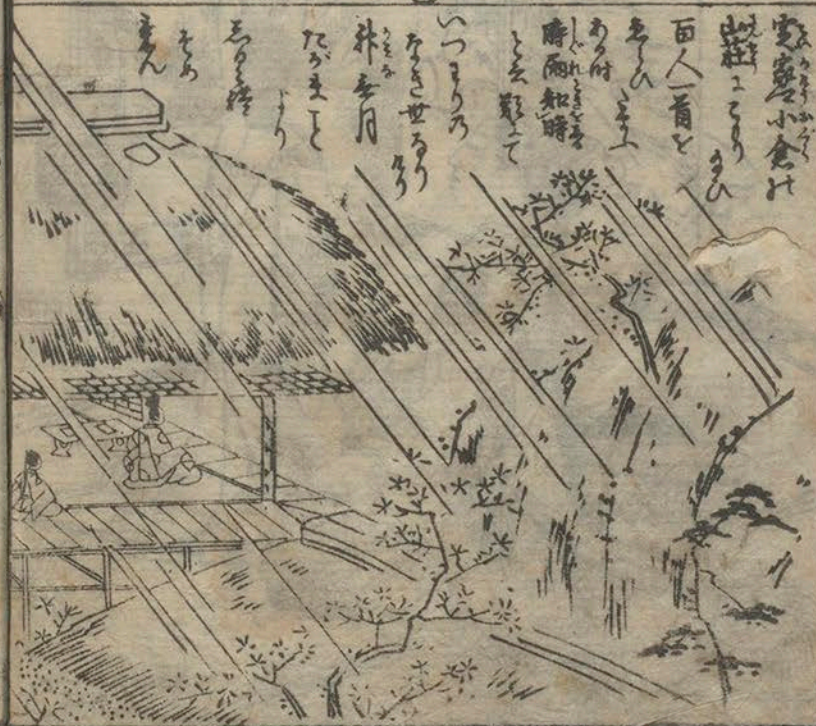
持統天皇

春之夏

きふく

名をいふ
の

か、く、さ、





柿本八磨
 わい 安乃
 ふらりの おれ
 ちり ねなぐ
 ちり ねなぐ



山色赤人
 田子の浦ふら
 いあ ねなぐ
 白めれふド乃
 そろ ねなぐ



徳九大夫
 奥山みみら
 ふら ねなぐ
 麻の ねなぐ
 とら ねなぐ



中納言家持
 新の ねなぐ
 ちり ねなぐ
 ねの ねなぐ
 ねの ねなぐ



多分とぬりぬり
 けいけいを見せ
 じんしきしき事今
 世俗じんわいの
 ぞうーたのそとけ
 てんむこぎんろ
 けいときんときも
 うみぬとなまば
 ざくそくそくぬ内
 は見ふしきふじん
 ところきたり或ハ



安清の
 ありさ
 けさる
 二重乃
 一あり月



森提法
 わの
 人々



小野小町
 花の色は
 うつみ
 我身



蟬丸
 あまやこの
 けいけい
 壱坂の



新るどれ葉店に床
 二腰うちけふよとを
 かぐよとるるにけ
 ぬふんをれきまう
 ひこのくれけお方
 けきよりてまふ
 とくろりもとこの
 乃ちうとくぬぬ
 是は式法をうかれ
 とももくおぬぬ
 いうれどもとぬぬ



赤少議堂
 和回のそ
 い十時をて
 るに女と人な
 若くあまのつり



僧正遍昭
 天は風雪の
 かしら
 し女とて
 ちげーとめを



陽成院
 けくを標の
 なる川
 つりて



河原た大臣
 みのくれ
 作ゆり
 そめ



あり又はいざんをば
 かりばし千番とて
 ことりやまき夜儀
 わるぶるしや事肌
 ぶ式ハ七荷七種又
 又あみ種三荷三種
 等那き七荷七種と
 二荷ハ種七荷七種
 種ハ者なりううふ細
 けお小社ニも常
 ととるしやを

光孝天皇
 君がすめまの
 世ふいあ
 まれつむ我
 衣子よ君ハ少りけ



中納言平
 立り終るまの
 山乃と種
 世あるまろく
 きらばい
 今ゆりえ



たのこれきやうとうけ
 てうた乃書をそ
 てもれをきおや
 親類きうへき一れ
 他人に内かたりき
 世に成るこのかき
 けけをめきそ
 ありあり
 そは目とやみ
 けりきなること
 そ人乃かりき

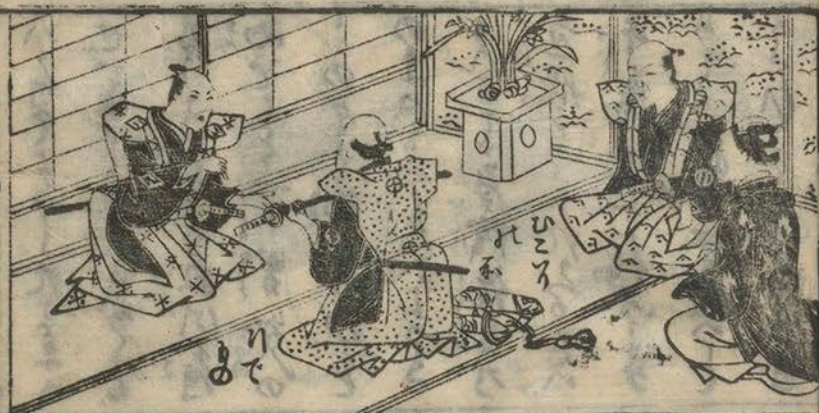
左京業平朝長
 子振神代も
 きらとら
 五回川
 かりたをわ
 ありき



左京敏行朝臣
 任のい
 きよ
 くらや
 海人めよ



多うそいそふのよ
 するも何なるうむと
 つりけ式おそえ嬌
 皆乃うへたれぬり
 西んハ男子とるま
 匠とむるものぬり
 ときりたうをま
 するなりむうそま
 け新いんとばあぬり
 のよにあたりりる今



伊勢

難波ごみト

つたあーのうた
 まねくばう紙
 すぐてよるや



元良親王

俊成連バ今

かねはまる
 かねはまる
 あむとをきふ



素性法師

今あむと

長月のうり
 月紙



文屋康秀

吹うに秋の

まねくばう紙
 あむとをきふ



八つてふろしれまー
 せ一あのもまふよある
 舞ふへをりぬけ
 おとこふ下男
 のまふ酒とのむと
 のまふこひひふ
 んてを残れ
 包根といふれろこ
 千鳥いもも
 りてこれねあて
 ろいもも



大江千里
 月をば
 らみ
 のこも
 けり
 けり
 あそふはあそふと



菅家
 いまひぬさ
 うあそ
 らのあそ
 けり
 けり

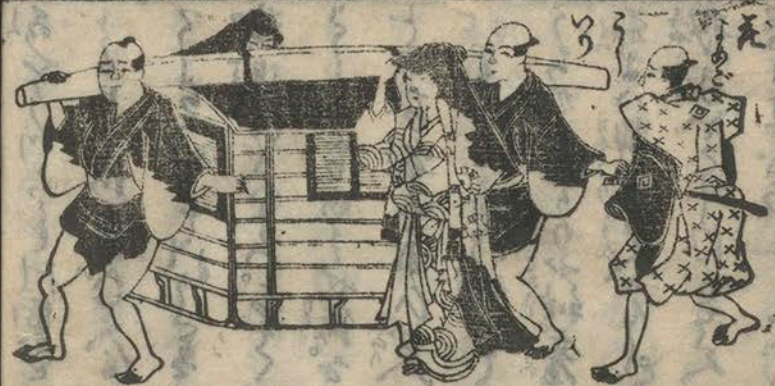


三浦大長
 名しれ
 あそふ
 けり
 けり
 けり



貞信公
 小倉山
 けり
 けり
 けり
 けり





坂上是則

おがけの舟の

月や

あけの

あけの

春道列村

山は

うけ

あけ

あけ

紀友則

久

の

あ

あ

坂上無風

あ

あ

あ

あ



乃こがねといふ人なる
 ちやこそうもいふ所
 して悔はれうもいふ
 ぬちれいありぬを
 面いふ縁乃守
 ちやこそいふちかど
 雲はすもいふちけ
 ちやこそ女中いふ乃
 女房様のいふれぬ
 ちやこそいふちけ
 ちやこそ男様いふ



紀貫之
 人といふ
 ちやこそいふ
 ぬちれいありぬを
 ちやこそいふ



清原春成
 夏の夜いふ
 ちやこそいふ
 ぬちれいありぬを
 ちやこそいふ



又屋朗唐
 吹く秋の
 ちやこそいふ
 ぬちれいありぬを
 ちやこそいふ



右近
 ちやこそいふ
 ぬちれいありぬを
 ちやこそいふ



あやうはあまゆき
今やくと清き
むこれ方よはるるや
あー乃のりるやと
侍女高はあまゆき
化取のるよ入ま
あふー休るるや
つるるあまゆき
あまゆき
あまゆき
あまゆき
あまゆき



壬生忠貞



清系元補

契されうみ



なりぬけり人の裁けし
と持出りたごそとと
うけりへんえすなと
しもくさくさ
うき人並とれて極ど
更極どよす時
どろろむむごのう
うまむてあこえん
うけてのち中ばあ
うてこえんのちぬえ
ごううううううてハ

是れをいふまゝにうけ
 うのこもいふまゝに
 れうづきよてとく人の
 るいふまゝにうけ
 むいふまゝにうけ
 れいふまゝにうけ
 是れをいふまゝに
 うけいふまゝに
 れいふまゝに



中細五教忠

あいふまゝの
 のらねんめ
 うけいふまゝ
 のれいふまゝ



中細五教忠

うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ



謙徳公

うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ



曾孫好忠

うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ
 うけいふまゝ



事なりしを盛と
 して色直に小神を
 めしてあうとあうとあ
 ぬかうとあうとあ
 れり合ふとのまを
 難難ぬぬぬぬぬ
 盛なりぬぬぬぬぬ
 上の方へて七五三に
 涉後ぬりぬりぬり
 ハニ汁五葉をまよ
 王をまよりてハぬぬ

恵愛法師
 いま藤
 ちききききき
 じいきききき
 まききききき
 秋いふふふ



源重之
 風をいふ
 光つつ光の
 かねま乃きりて
 ねねねねね



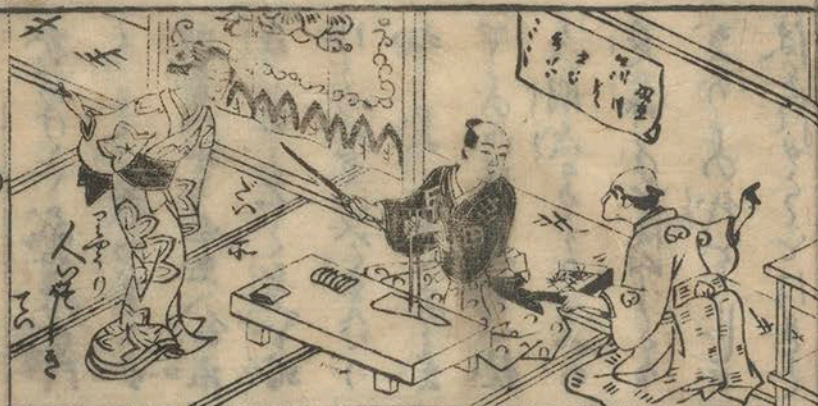
小神をすまにぬ
 ぬりぬりぬりぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ

大中位徳富親長
 所仕古博士の
 ちく火の
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ



若原義孝
 君のききき
 命えききき
 ぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬ





儀同三司母
 長秋の初末
 まていのくたを
 あつたきりれ
 命ともぐさ



若菜実方初長
 のきやうふ
 えやいふ
 けもさう
 かりゆき
 若菜道行初長
 かなきばく
 あいさう
 なれうき
 あさぐさ



こやみ月めりもなりぬ
 ものぢおこすまかあり
 しこく子然り姉乃
 親里よりゆくし所り
 こよてみ月逗留すり
 舞はるる金へ朋をり
 こころん席と違ふをる
 是都をさふと回す
 所りまてうらけをて
 まうこり憐れを
 いちゆきへたりあり



赤染束つ
 亭すゝめ祿を
 まうめを
 けよけりて
 うさくすゝの
 内紙をうのか



小或内侍
 大はふいくや
 しろの紙くれは
 まももえを
 おまろとて



伊勢大輔
 笑へのさめ
 都乃いそ梯
 もろのめ
 せはいめろふ



清少細玉
 夜とめてを
 そろふの
 けろくもよふ
 笑を
 ゆりこト



つしん
 月かこめて五ヶ月
 とおぬきハ若れ市
 けしきとくくくく
 八人思ふてくくく
 たの神くくく
 かくくくく
 常くくくく
 産む時けくく
 うぬきとくく
 かくくく
 かくくく



用方内付
 春の夜乃ゆあ
 ぐりるる
 かくくく
 かくくく



三條院
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく



神田法師
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく



良道法師
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく
 かくくく



月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの
 月ハ生れ乃々まゝの



大納言経伝



祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王
 祐子内親王



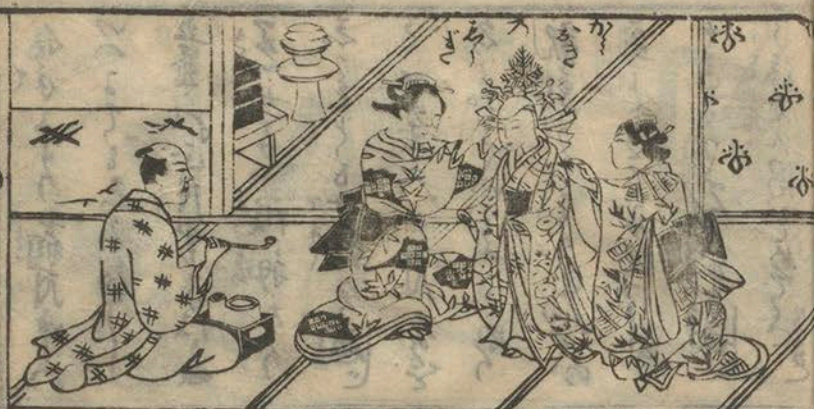
中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言
 中納言



源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝
 源後頼朝



ありたり百ちりりハ
 食ねれりやれり飯
 とさりりりりりり石
 云飯と宝珠形は縁
 そりりりりりりり
 おりり焼おハ筋緯
 とりりりりりりり
 石男子ハたの孫のう
 はるるるるるるる
 三葉ハ髪玉工月香
 のりりりりりりり



藤原基俊

契を記し

をりり

余り

あふれ

秋もいれり

はせ寺入道花園の

まのり

たぐ

久々乃人

奥は

崇徳院

源を

あや

河の

す

源

淡路

ち

なく

祢



傷はより初月中に
 いたるもえりし
 五葉れ正月男子は
 悪女子ハ被神なり
 あゝとて世俗今
 うは年乃十月を
 あゝとていふと
 親類あううとん
 至してきておれ
 そとよりてく生
 子孫をん問をめ



ちまふまの
 秋風よふか
 いくまの
 海よりり
 加れ新のま



待賢門院
 まぐれせんも
 まぐれせんも
 みだれてき
 相をもめ



後徳大寺
 かくきん
 はるう
 なぐれ
 智の乃
 の



道因法師
 ちん
 いのら
 うまふ
 あみ



女中相性名書

太田 中 相性 名書
 由 房 不 連 局 大 麻 梅
 火 時 吉 若 虎 炎 曲 久
 菊 花 為 難 吟 歌 狂 益
 園 振 玉 鹿 吟 歌 狂 益
 七 時 中 時 吟 歌 狂 益
 長 時 中 時 吟 歌 狂 益
 金 時 中 時 吟 歌 狂 益
 流 市 中 時 吟 歌 狂 益
 坂 市 中 時 吟 歌 狂 益
 水 市 中 時 吟 歌 狂 益
 十 市 中 時 吟 歌 狂 益
 初 市 中 時 吟 歌 狂 益

世の事

男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々

男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々
 男々 男々 男々 男々 男々

後束極振振振振振振

養々々々

夜々々々
 ひろろろろろろろろ



二條院後院

我神ハ志ハ

人々々々

わくまろふ



強倉右大臣

世の中ハ

子ふもむ

法こくあまの

はまてうろ



氣儀雅經

みろろろ

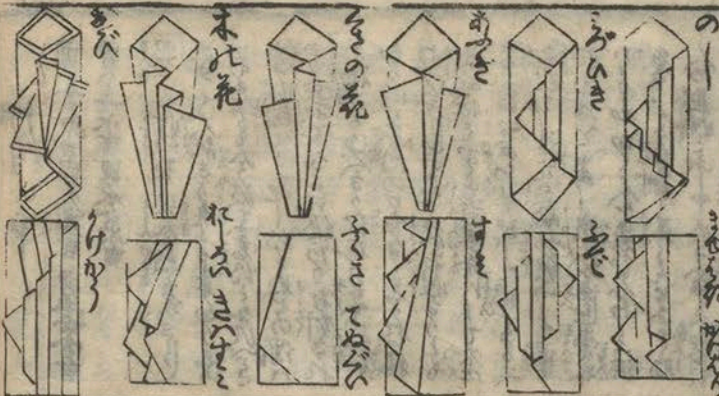
ふの秋う

さくさく

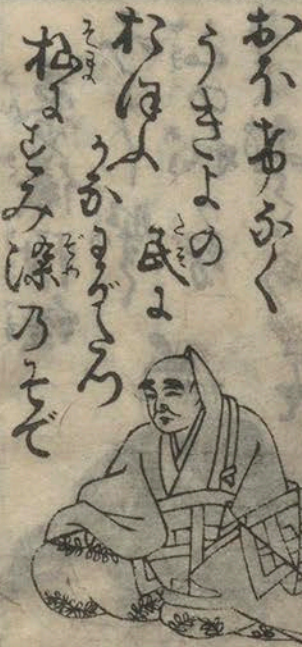
はまてうろ



小笠原流折形図



大僧心慈圖



入道前大政大長

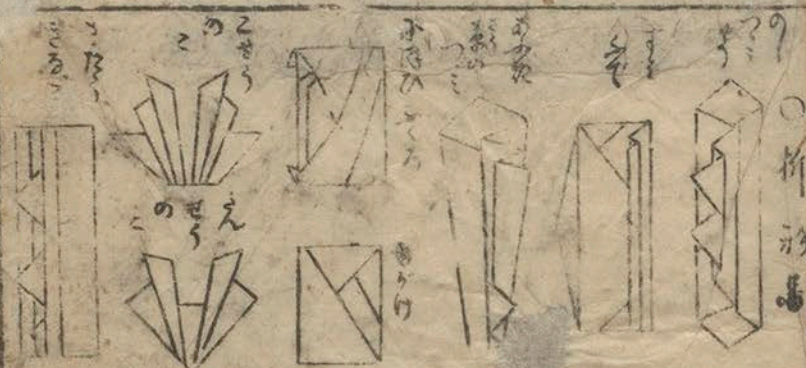


中絶言定家



正三位源





後鳥羽院

人をかくるも

あらきれ

世はふゆふ

のおりよ

順徳院

百穀やうるき

新徳のきよ

きんあまうりふ

ひうかり



く世百人角の... 順徳院... 百穀やうるき... 新徳のきよ... 千あまうりふ... ひうかり... 万手顔おろし... 河内屋...

大坂書林

大坂心齋橋通
南本町

河内屋

